

【製品評価技術基盤機構】

平成27年度第3四半期における公益法人等への会費支出の状況

平成28年 3月 18日時点

	交付先法人名称	名目・趣旨	交付額 (単位:円)	支出先法人が定める 会費一口当たりの 金額、もしくは最 低限の金額 (単位:円)	交付日等 (支出決定日)	支出の理由等
1	(一財)電気安全環境研究所	研修会参加費	1,166,400	-	9月1日 9月17日	<p>NITEで蓄電池評価試験を安全かつ適切に実施するため、リチウムイオン蓄電池の安全評価試験を実施している当該法人から、規格や基準等に明記されていないノウハウや安全管理対策を含めた試験現場での実務に必要な基礎知識を習得するため、研修を受講するもの。</p> <p>(研修1種のべ5人) ○リチウム二次電池の規格試験を実施するための実務研修 1,166,400円(233,280×5人)</p>
2	(一財)日本規格協会	研修会参加費	570,240	-	5月21日 8月12日 8月24日 11月13日 12月18日 12月24日	<p>工業標準化法に基づく製品認証機関登録制度等にかかる業務において審査員は立入検査を行うにあたり、その資格基準として品質管理に関する適切な知識を持っていることが要求される。そのため、当該知識等を習得できる研修を受講するもの。</p> <p>(研修4種のべ9人) ○第1回ISO国際標準化研修-入門編 受講料 11,880円 ○品質管理セミナー入門コース(2日間) 36,720円 ○第1回IEC国際標準化研修-入門編 受講料 23,760円(11,880×2人) ○ISO国際標準化研修-中級編 受講料 14,040円 ○品質管理と標準化セミナー 334,800円 ○IEC国際標準化研修-中級編 受講料 28,080円(14,040×2人) ○研修「JIS品質管理責任者セミナー専修科」 120,960円</p>
3	(公社)日本生物工学会	展示会出展料、参加費	259,400	-	10月7日 11月4日	<p>当該学会は大学、公的機関、製薬企業、化学企業、食品企業等の微生物研究者が集う大規模な年次大会を開催し、この大会でブース展示を行うことにより、業務に必要な情報を入手し、機構業務に活用することを目的とするもの。</p> <p>(出展料1種、参加費1種のべ1人) ○第67回日本生物工学会大会附設展示会 248,400円 ○第67回日本生物工学会大会 参加費 11,000円</p>

4	(一財)関西電気保安協会	研修会参加費	155,520	-	11月18日 12月22日	<p>NITEが建設中の大型蓄電池安全試験施設においても副試験棟に導入する外部短絡試験機の抵抗値調整にて「低圧電路のうち、充電部分が露出している開閉器の操作の業務」が発生し、さらに本施設は高圧の受変電設備であるため、両研修を受講することとする。</p> <p>(研修2種のべ8人)</p> <p>○低圧電気取扱者安全衛生特別教育コース受講 73,440円 (18,360×4人)</p> <p>○高圧電気取扱者安全衛生特別教育コース受講 82,080円 (20,520×4人)</p>
6	(一社)日本電気計測器工業会	出展料	172,800	-	12月7日	<p>当該展示会は、産業界の設備技術者、開発研究者、経営者、営業・資材担当者等は主な対象とした国内で最大規模の計測・制御技術専門の展示会で有り、この展示会でブース展示を行うことにより、業務に必要な情報を入手し、機構業務に活用することを目的とするもの。</p> <p>(出展料1種)</p> <p>○計測展2015TOKYOへの出展料 172,800円</p>
7	(一社)日本能率協会	研修会参加費	172,800	-	12月14日 12月24日	<p>電気・電子機器を構成する部品の故障による製品事故が多く発生している。このような事故の原因究明調査においては、部品の経時変化も含めて、壊れた際の影響とその原因を明らかにすることが重要である。当講習会において、部品の壊れ方の原理・原則、故障部品の解明技術、トラブルの未然防止方を学び、製品事故調査の技術力向上を図るため、研修を受講するもの。</p> <p>(研修2種のべ2人)</p> <p>○電気・電子部品の壊れ方セミナー受講(中部) 81,000円</p> <p>○電気・電子部品の壊れ方セミナー受講(関東) 91,800円</p>
合計			2,497,160			